

## 富士通 2007 年度通期決算説明会 質疑応答メモ

日時 : 2008 年 5 月 12 日 (月) 17 : 40~18 : 40  
場所 : 富士通汐留本社 24 階大会議室  
説明者 : 代表取締役副社長 小倉 正道

### 質問者 A

Q: 08 年度は、営業利益減益要因として、為替の影響によるものが 200 億円、退職給付費用増で 200 億円、減価償却費増で 245 億円、研究開発費増で 113 億円等、約 760 億円あります。これらを踏まえた上で、各セグメントにおける 07 年度実績と 08 年度計画を教えてください。

A: システムプラットフォームについて 08 年度は、150 億円の減益を見えています。07 年度は、サーバ部門では 07 年度に新たに発売された SPRAC Enterprise や、PRIMERGY が大きく牽引しました。ストレージやソフトウェアも貢献しました。一方 08 年度については、サーバ部門で今まで寄与してきた PRIMEPOWER のビジネスがなくなることにより、厳しく見えています。

ネットワークプロダクトは、携帯電話基地局ビジネスにおいて、07 年度上期はマルチバンド BTS が開発中であり、下期に大きく需要が出たものの上期の落ち込みを補えませんでした。フォトニクスでも、FTEL におけるブリティッシュテレコム (BT) 向けビジネスが厳しい状況でした。FNC の WDM ビジネスですが、キャリアの投資は続いておりますが、一方で 07 年度は開発費用負担が響きました。

サービスの 08 年度は増益を見込んでいます。ソリューション/SI 系が収益を堅実に伸ばしてきます。国内の不採算ビジネスはコントロールできています。またインフラサービス系では、07 年の FS の不採算ビジネスに関して引当をしていますが、これは一時的なもので、アウトソーシングの民需・官需も伸びています。国内のアウトソーシング、インフラ系のサポートビジネスの収益力も上がってきています。

ユビキタスソリューションは為替 (円/ドル) を 08 年度 100 円と円高に見ることによって、PC については部材調達面でプラス要因に効きます。HDD は 07 年度に 2 ケタ台の営業赤字をだしました。上期に出した赤字を下期の黒字で補いきれませんでした。垂直磁気記録方式の HDD の出荷が 4Q に偏ったことも原因の一つです。また 2Q から 3Q は価格が安定的に推移していましたが、4Q は前四半期比較で 7%から 8%の大きな下落となりました。08 年度は垂直磁気記録方式の 120GB/P、160GB/P の HDD が大きく寄与し 2 ケタの黒字を見込んでいます。

LSI は 2 ケタ前半の営業赤字でしたが、08 年度は 2 ケタ後半の営業黒字を見込んでいます。デバイスソリューション全体では、新光電気工業が為替影響により営業利益減になる点を織り込んでいます。

Q: 海外ビジネスの状況を教えてください。

A: 英国の富士通サービスについては、07 年度 売上 2567M ポンド、営業利益 67M ポンドです。100M ポンドほど減益になりました。ドイツの TDS 社など買収した会社のビジネスは堅調です。政府系の商談だけでなく、民需の大きなビジネスが取れ始めています。唯一つのプロジェクトで一時的な不採算がでました。08 年度計画は売上 2600M ポンド、営業利益 170M ポンドを見込んでいます。

FSC は 07 年度売上 6600M ユーロ、純利益 68M、08 年度計画は売上 7500M ユーロ純利益 55M ユーロを見込んでいます。大型のサーバは出荷が鈍ってきましたが、中小型機種の PRIMERGY が牽引してきます。

FCS は 07 年度売上 682M ドル 営業利益 33M ドルでした。PC や小型のサーバに所要は移っていくことで 08 年度の売上は 720M ドルと膨みますが、営業利益は 15M ドルと少なめに見込んでいます。

FC については、07 年度売上 710M ドル、営業利益 20M ドルになりました。08 年度計画は売上 720M 営業利益 30M と増益基調ですが、買収効果が必ずしも生かしきれていません。インドのオフショアビジネスを持つ米国の会社を買収しましたが、アメリカのお客様からの所要を取りきれていません。オフショアビジネスについては、富士通グループ全体で開拓していこうとしています。

## 質問者B

Q. IT 分野の業種別の景況感を教えてください。

A. 国内の IT 市場全体では、2008 年度は前年度比 102%を見込んでおり、サブプライム問題などの影響はそれほど大きく受けることはないと考えています。

業種別に見ると、産業・流通分野では、2007 年度はアウトソーシング商談の拡大や、自動車分野での部品発注／物流管理システム等の商談活発化により 103%と堅調に推移したのに対し、2008 年度はオープン系サーバ、内部統制に向けたストレージビジネスの拡大により 101%を見込んでいます。

通信分野では、2007 年度はマルチバンド BTS への参入が下期からとなったことにより、計画通り前年比 91%となりました。2008 年度は、マルチバンド BTS や NGN 関連ビジネス、サーバ商談により、105%を見込んでいます。

金融分野では、2007 年度はメガバンクの統合商談や地銀の勘定系、及び営業店システムの更新商談、保険・証券会社ではコンプライアンス強化に伴うシステム商談が好調に推移し、108%と大幅なプラスとなりました。2008 年度は前年度の水準が高かったため、前年比 97%と若干マイナスを見込んでいますが、顧客サービス強化に向けた店舗改革や携帯電話を活用した営業支援強化など、引き続き高水準に推移すると考えています。

公共分野では、2007 年度は官公庁向けのレガシーの再構築商談や科学分野における JAXA 様向けスパコン商談等の大型商談が好調に推移し、前年比 109%と大幅なプラスとなりました。2008 年度は、官公庁向けシステム最適化商談や公営競技、科学分野向けシステム商談も前年に続き好調が見込まれ、前年比 101%と見えています。

地域ビジネスは、2007 年度は厳しい市場環境と言われていましたが、自治体関連が好調に推移するとともに後期高齢者医療制度への対応商談などにより、前年比 101%となりました。2008 年度は前年比 100%と横這いを見込んでいます。

ヘルスケア分野では、2007 年度は大型病院向け新病院情報システムや、ヘルスケア周辺ビジネスの商談獲得により、前年比 118%と大幅なプラスとなりました。2008 年度は、前年度の水準が高かったため、前年比 87%とマイナスを見込んでいますが、医療提供体制整備に向けた地域医療連携システムの展開など、当社ヘルスケアビジネスの更なるシェア拡大を目指したいと考えています。

- Q. 2008年度の業績見通しでは、退職給付費用の増加が約200億円の減益要因になるとのことですが、セグメント別ではどのような配分になるのでしょうか？
- A. テクノロジーソリューションで約120億円、その内、サービスが3分の2程度です。ユビキタスプロダクトソリューションで約20億円、デバイスソリューションで約35億円を見込んでおり、それに全社消去などを加え、全体で約200億円の影響があると見ています。
- Q. 2008年度上期の業績見通しでは営業利益が前年同期比で約20%のマイナスとなっていますが、内訳を教えてください。
- A. 従来、当社の収益は期末集中型でしたが、ここ数年をかけて平準化を推進し、ある程度の効果が出てきたと思っています。しかし、まだ完全に平準化できている訳ではなく、以前として上期、第1四半期が弱く見えてしまう面があるものをご理解ください。サブプライム問題等により、大きな影響を受けるなどの特殊な要因があるものではありません。
- Q. 2007年度上期は半導体事業が悪かったため、2008年度上期は前年同期比では好転する要因になると考えられます。また、システムプラットフォームにおいても、サーバー事業がSPARC Enterpriseのリリースによって2007年度第4四半期が良かったのであれば、2008年度第1四半期もその継続によって比較的良い結果を出せるのではないかと見ています。製品別に見た足元の状況を教えてください。
- A. 半導体事業については、確かに2007年度上期は悪かったため、それと比較するとスタートは良いといえるのかもしれませんが、以前として若干の赤字が出るものと見ています。また、実際に第1四半期は若干弱含みと見ている面もあるのに加え、依然として期末に収益が集中する傾向があると見ています。

#### 質問者C

- Q. 富士通サービスのビジネスはアウトソーシング中心と聞いていたので、比較的安定した利益を出すと思っていました。今回、約200億円の利益下ブレが起きたのはなぜですか？今後、このようなことはないと思っていますでしょうか？
- A. お客様のことなので、詳細をお話出来ないことをお許しください。  
アウトソーシング商談の中には、導入時のシステム構築を含めた案件も一部あります。今回の案件については、非常に難易度の高い特殊な事例であり、今後同様の事例が出てくるのは稀だと考えます。
- Q. 決算発表が遅れた理由は何ですか？富士通サービスのプロジェクト問題が理由であれば、延期発表の段階で、理由を公表で出来たのではないですか？
- A. 開示が遅れた理由として、繰延税金資産の評価性引当金の取り崩しに関する検討、及び富士通サービスのプロジェクト問題について、お客様と交渉中であったため、守秘義務の観点から延期の理由について公表を控えておりました。

#### 質問者D

- Q. 07年度から08年度にかけて、サービスの営業利益が1400億円から1850億円に大きく伸びる計画になっていますが、これはどういう施策によるものですか？
- A. ソリューション/SIの生産性向上や、国内外でのインフラサービスの拡大を09年度中期計画に向けて進めており、その成果が08年度に出始めると考えています。また、富士通サービスの改善も大きく寄与します。
- Q. 富士通サービスの不採算案件に対する引当金はどの位ですか？
- A. 具体的な金額は申し上げられませんが、富士通サービスの07年度減益要因の大きな要因の一つです。
- Q. 為替により、営業利益ベースで08年度200億円のマイナス影響とのことですが、セグメント毎に補足説明をお願いします。
- A. 海外比率が高いフォトニクスや富士通サービスの影響が大きく、テクノロジーソリューションで200億円の半分弱を占めています。また、デバイスソリューションの電子部品も輸出が大きいいため影響が大きく、200億円の内、半分強を占めています。
- Q. 08年度にかけて、減価償却費が250億円程度増加しますが、その要因は何ですか？
- A. LSIで07年度に950億円、08年度も500億円と大きな投資を計画しており、08年度の償却費増加につながっています。また、成長分野であるサービス分野で国内外のデータセンターに関する投資も積極的に進めており、これも要因の一つです。

以 上